

# 第4回 日本免震構造協会賞 - 2003 -

第4回 日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

## 表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

## 表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置などについて研究開発により優れた成績をあげた者にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物に贈る。

## 表 彰

2003年6月11日

(社)日本免震構造協会通常総会後

## (社)日本免震構造協会表彰委員会委員

和田 章(委員長) 石原直次 大越俊男  
岡本 伸 五十殿侑弘 仙田 満

## 審査経過

応募の内訳は技術賞3件、作品賞13件で功労賞については応募がなかった。審査の経過は、予め審査書類の内容を各委員が十分吟味し、初回の委員会で自由に意見交換を行い、その結果第一段階として、技術賞候補を3件、作品賞候補を6件とした。

技術賞については協会会議室にてヒアリングを行い、作品賞については、4回に分けて現地説明を受け、審査を行った。なお、技術賞についても、今回は一部現地で説明を受けた。最終的に、表彰委員会を持ち、審議を重ね満場一致で技術賞3件、作品賞3件を決定した。

前回と同様、技術賞、作品賞の枠組みの中にそれぞれ1件の特別賞を設けた。技術賞では研究開発の創造性、技術性に視点を置いているが、表彰制度の目的にある普及発展に努力工夫をした点をも評価して特別賞とすることとした。作品賞では、災害時の情報発信基地への積極的取組の視点を含めて評価することとし、特別賞とする

## 選 考 結 果

第4回 日本免震構造協会賞受賞は下記の6件である。

### I 技術賞

- 非同調マスダンパー効果を持つ中間層免震構造の設計法の開発  
株式会社日建設計 村上勝英、木原碩美、小崎 均  
東京理科大学 北村春幸
- 風による免震部材挙動と免震建物風応答評価法  
鹿島建設株式会社 竹中康雄、鈴木雅靖、飯塚真巨  
吉川和秀  
株式会社ブリヂストン 鈴木重信
- 〈特別賞〉慶應義塾大学理工学部 創想館  
慶應義塾大学 吉田和夫  
トキコ株式会社 呉服義博  
株式会社大林組 落合正明、橋本康則

### II 作品賞

- 山口県立きららスポーツ交流公園多目的ドーム(きらら元気ドーム)  
山口県 町田明德  
株式会社日本設計 人見泰義、千鳥義典
- 慶應義塾大学 日吉 来往舎  
慶應義塾 安西祐一郎  
清水建設株式会社 北村佳久、中川健太郎、吉田郁夫  
加藤喜久
- 〈特別賞〉SBSスタジオ棟  
静岡放送株式会社 松井 純  
大成建設株式会社 田中 勉、勝田庄二、平尾明星  
安井正憲

(敬称略)

こととした。

全般的な印象として、免震構造が我が国に定着し、その利点を生かした建築に発展してきたことが感じられる。さらに、これらを支える多くの技術開発が進められていることが分かる。

技術賞については、特別賞も含めてそれぞれ新しい考えを打ち出し、研究を重ね創意工夫をこらしている。

作品賞については、素晴らしい免震建築が多く建てられており、最終決定するのに悩ましい時代になってきた。我田引水になるが、我が国の建築家はプロジェクトを始める前に、免震構造の利用を第一に考えざるをえない時代になったように感じる。大変喜ばしいことである。

おわりに、免震建物について、地震時の機能性などその優秀さが認められ、種々の優遇措置が設けられ、更に普及・発展することを望む。